

勸進帳

それつらつらおもんみれば、大恩教主の秋の
月は、涅槃の雲に隠れ、生死長夜の永き夢、
驚かすべき人もなし。爰に中頃、帝おわしま
す。御名を聖武皇帝と申し奉る。最愛の夫人
に別れ、恋慕やみ難く、涕泣眼に荒く、涙
玉を貫く。思いを先路に翻し上求菩提の為、
盧遮那仏を建立し給う。然るに去んじ治承の
頃、焼亡し畢んぬ。かかる霊場の絶えなんこ
とを嘆き、俊乗坊重源勅命の蒙つて、無常
の勸門に涙を落とし、上下の真俗を勧めて、
かの霊場を再建せんと諸国に勸進す。一紙半
銭、奉財の輩は、現世にては無比の楽に誇
り、当来にては数千蓮華の上に座せん。帰命
稽首、敬って白す。

